



下関市のアス合材 プラントを更新

NIPPON、都市ガス
燃料は中国地方で初

NIPPONは、全額出資
子会社の山陽アスコン（山
口県下関市、幸城祐史社長）
が運営するアスファルト合
材工場のプラントを更新し
た。写真（NIPPON提

供）。NIPPONグループ
として中国地方で初めて都
市ガスを燃料に使用する。

燃焼効率に優れた低燃費型
ガスバーナーと、合材製造
時の温度を下げて品質が
維持できる機械式フォーム
ド装置を導入。従来に比べ
二酸化炭素（ CO_2 ）排出
量が約3割削減できる。燃
料の使用量も抑える。

4日に安全祈願式と火入
れ式を開いた。全国にある
NIPPONグループの合材
工場151カ所のうち、燃
料を都市ガスに切り替えた
プラントは31カ所目。富山
県の工場でも都市ガス対応
の更新工事を実施してい
る。都市ガス供給が難しい
地域では、廃食油を燃料と
する設備導入を予定してい
る。



NIPPOは、同社100
%子会社の山陽アスコン（山

NIPPO

都市ガス化でCO₂ 3割減

下関のプラント更新

山口県下関市、幸城祐史社長）

が運営する下関工場のアスファルトプラントを更新したと発表したII写真。都市ガスを燃料としたアスファルトプラントを導入したほか、燃焼効率が低い低燃費型ガスバーナーを採用し、従来に比べて約3割のCO₂排出量を削減する。合材製造時の温度を下げ、品質を維持できる機械式フォームド装置も採り入れ、燃料使用量自体を抑える。4日に安全祈願式、火入れ式を実施した。

同社は環境配慮型プラントへの更新を計画的に進めており、プラントの都市ガス化は同工場で31カ所目となる。今年度2カ所目の都市ガス化で、中国地区では同社初だという。現在、富山県の工場と同様の更新工事が進む。全国131カ所のグループ工場のうち、都市ガスの供給が難しい地域には、骨材乾燥炉の燃料に廃食油を活用する設備を導入予定だ。

2050年のカーボンニュートラル達成に向け、CO₂排出量削減に積極的に取り組んでいる。21年度に全ての事業所でCO₂フリー電力を導入した。今年5月にはSBT（サイエンス・ベースド・タ

ーゲット）認証を取得し、合材製造時のCO₂排出量のほか、スコープ3（サプライチェーン排出）の削減などにも力を入れる。